



トップに聞く!

生産者の顔の見える
安全安心で美味しいトマトをお届けし、
お客様の健康な食生活に貢献します。



▲選果場にて(左から中村雄一社長、竹下頭取)

株式会社 八代トマト
流通センター
代表取締役社長

中村雄一氏

取引店/熊本銀行 松江通支店



竹下頭取
トマトの生産・販売を手
掛けておられますが、創

業の経緯はどのようなものでしたのでしょうか。



中村社長
実家は代々、い草の産地
熊本県八代市で、い草の栽

培(畳表の加工)をしながら、トマ
トも栽培していました。い草は、
色と香りを出すために泥水に漬
けて天日干しにしなければなら
ず、まだ機械化が進んでなかった
こともあり、重労働でした。結婚

したばかりの父・中村嵩(現会
長)は、泥に染まった母の服を見て
「結婚前、きれいに身づくろいして
いた妻を思うと可哀想でたまら
ない」と思い、1965年(昭和
40年)頃、い草づくりから撤退し、
トマト農家への転身を決断したそ
うです。

今から20年程前のトマト農家
は、箱詰めなどの出荷作業を夜
遅くまで行っていました。その作
業を集約し、効率化を図るため、
1995年(平成7年)、父が地
元の同級生の農家3戸と、トマト
を共同で出荷する会社を立ち上
げたのが我が社の始まりです。

現在は、30戸の契約農家と東
京ドーム約4個分の広さを誇る
自社農園(約17万㎡)でつくるト
マトを、品質基準が厳しい大手
スーパーや生協、外食チェーンな
どへ販売し、年間の出荷量は4千
トンを超えています。



▲男性社員



▲顧問の先生方と社員研修旅行(シンガポール)



▲山下奉昭生産者部会長

環境にやさしく、安全・安心 八代トマト 美味しさの秘密!!



出荷までオール手作業

機械に頼らない選別。大きさの違うトマトを組み合わせて出荷する



病害虫対策

黄色の粘着シートで誘引捕虫。病気の拡大を防ぎ、農薬を削減する



健全な土作り

苗を植える前の1か月間は土づくり。良質な堆肥を投入



太陽熱で土壌を消毒

太陽熱を利用して、土壌病菌の消毒を行う



新鮮で美味しいです!



▲ミニトマト



▲八代トマト「妻せつ子」

トマトのブランド名「妻せつ子」は、ユニークなネーミングですね。

商品を世に送り出すには品質はもちろんですが、インパクトのある商品名が必要だと考え、父が付けた名前です。食生活が洋風化していく時代背景の中でカタカナ名の商品が溢れ、日本古来の良さが薄れていくことに違和感を覚え、閃いたのが愛妻の名前「節子」でした。

長年トマトを作り続けてきた中で、手をかけ心をこめて育てると良いものができるのは「トマトも人間も同じ」と実感し、敢えて野菜に家庭的であたたかみのある人の名前「妻せつ子」を命名したのです。このインパクトのある商品名に消費市場はすぐさま反応し、発売当時から現在まで、「妻せつ子」は我が社の主力ブランドとなりました。

節、気温によって熟度の進み具合が変わるため、収穫のタイミングを微妙に変えていきます。最高の色と味をお客様にお届けするためです。

我が社のトマトを取り扱いたいと希望される企業には、取り引き前に必ず生産現場の見学をお願いしています。これは、流通業の方にも自分の目で見て、手で触って、食べて納得してもらうことで「生産者の顔」が見え、消費者の皆様も安心してご購入いただけることを考えるからです。

また、私たちは農薬・化学肥料に極力頼らない栽培にこだわり、消費者の「安全・安心」に対するニーズに応えています。

トマト栽培にはどのような難しさがありますか。

やはり自然相手というのが一番難しいですね。同じ土地、同じ栽培

ています。(さまざまなメディアにも紹介されました)

貴社のこだわりを教えてください。

消費者の皆様には、最高の安全性と満足をお届けするために、私たちは農産物の安全性はもちろん生産から流通に関わる全ての人たちに高水準の農業生産工程管理(GAP)手法を導入し、お互いの共通理解を深めるためのパートナーシップを大切にしています。

生産者の皆様には、これまでに培ってきた栽培管理技術をあらゆる場面で伝授し、逆に私たちも生産者から学ぶことで、組織全体の栽培管理技術が年々向上しています。

トマトは色が価値観の大部分を占めるため、栽培管理と同様、色の管理も非常に重要です。季節、気温によって熟度の進み具合が変わるため、収穫のタイミングを微妙に変えていきます。最高の色と味をお客様にお届けするためです。

我が社のトマトを取り扱いたいと希望される企業には、取り引き前に必ず生産現場の見学をお願いしています。これは、流通業の方にも自分の目で見て、手で触って、食べて納得してもらうことで「生産者の顔」が見え、消費者の皆様も安心してご購入いただけることを考えるからです。

最後に、将来展望をお聞かせください。

最近では、海外に農作物を輸出する農家が増えてきましたが、我が社はこれからも国内販売に注力していく方針です。しかし、売上を伸ばすために、やみくもに契約農家を増やし、出荷量を増やしていくことより、我々と価値観を共有できる生産者と共に多様化する消費者ニーズに対応できるトマト作りにこだわっています。一方



▲前列左4番目から西田幸広弁護士、松田哲也社労士、中村嵩会長、松山知晴取締役、中村雄一社長、竹下頭取、若松支店長(熊本銀行)



最後に我が社では、トマト農家になりたい方を募集しています。トマト栽培歴55年の経験を基礎から伝授し、独立をサポートします。経験、未経験は問いません。遠方の方には、単身寮も準備していますので、トマト栽培への情熱を持って、ぜひ一緒にトマト農家を目指してみませんか。

◎インタビューを終えて

八代のトマトの食味は、糖度、酸味のバランスがとても絶妙で、私も好んで食しています。

生産から流通にいたる全ての方々とのつながりを大切に、消費者に最高のトマトを届けたいという一途な想いには、心から敬服しました。

これからも、安全で美味なトマトを食卓に届けいただき、益々発展されることを期待致します。



熊本銀行 取締役頭取 竹下 英

見学風景

わが子のように大切に育てたトマトです!



▲中村雄一社長



創業者中村嵩会長の功績

中村嵩会長の経歴紹介

昭和52年 農林大臣表彰

昭和55年 八代市政功労者表彰

平成22年 八代市有功者表彰

平成23年 熊本県農林水産業功労者表彰

平成25年 黄綬褒章受章



黄綬褒章受章

中村雄一社長を支えています!



▲左から有馬ひとみ取締役(長女)、中村嵩会長、松山知晴取締役(次女)



中村嵩会長

▲2013年 農業の功績に対して中村嵩会長が黄綬褒章を受章

では生産者が安心してトマト作り
に専念できるように所得安定化
対策も講じていかなければなりま
せん。現在進めている取引形態の
見直し、新規商品の開発などもそ
の一環です。消費者に最高の安心
と満足をお届ける企業であり続け
たいと思っています。

また、農業の課題として後継
者不足が問題となっていますが、
我が社では20代、30代の若者が
多く働いています。彼らがトマト
栽培の経験と実績を積んで、独
立していくことが私の夢です。そ
して、単に利益を得るために独立
するのではなく、独立した暁に
は、誰よりもトマトづくりに情熱
を注ぐ生産者になってほしいと
願っています。トマトの栽培には
少なくとも3年〜5年の経験が
必要です。しっかりと技術を身に
つけ、また自信とやる気を持って
独立を目指してもらいたいと思っ
ています。